

デジタルアンプによるバイアンプシステム(4)
—バイアンプシステム (その3) —

1. 始めに

前報(3)に引き続き、ステレオ誌付録の3機種デジタルアンプから2機種を選んでFAL C90EXWのバイアンプ駆動を行います。

2. バイアンプの試聴方法

試用するFAL C90EXWは前報(2)と同様です。

駆動するアンプとしては前報(1)で使用した3機種から次の2機種を選択しました。前報(2)との違いは、ハイルドライバーユニットの駆動アンプが池田工業製のケースに入れたLXA-OT1から、同じLXA-OT1を共立電子ケース入りモノとして2台使用に替えただけです。

前報(3)との違いは、ハイルドライバーユニットと平面スピーカーユニットの駆動アンプを相互に入れ替えただけです。

①LXA-OT1

共立電子ケース入りモノとして2台使用

オペアンプをTexas InstrumentsのNE5532APに交換

ハイルドライバーユニットを駆動

②LXA-OT3

共立電子ケース入りモノとして2台使用

オペアンプをTexas InstrumentsのNE5532APに交換

平面スピーカーユニットを駆動

3. デジタルアンプによるバイアンプ駆動の試聴結果

音色的には前報(2)のハイルドライバーユニットの駆動アンプに池田工業製のケースに入れたLXA-OT1を使用した場合と良く似ていますが、モノ2台駆動でやや響きに余裕が出た感じです。

そこで、もう一度、LXA-OT3のバイワイアリングに戻すと、高域から低域までLXA-OT3の音色で統一がとれた好ましい音になりました。

4. まとめ

今回の組み合わせでは基本的に前報(2)のハイルドライバーユニットの駆動アンプLXA-OT1を使用した場合と同様でした。

最後になりましたが、この一連の実験の目的を説明しますと、FAL C90EXW の標準的な使い方はハイルドライバーユニットと平面スピーカーユニットの入力端子を専用のジャンパー線で接続し、シングルワイアリングで駆動するのですが、このような使い方は上下のユニットの逆起電力が相互干渉を起こしますので、バイワイアリングが推奨されるケースが多いのです。FAL C90EXW では、以前の検討でバイワイアリングが有効であったため、ずっとこのような使い方をしてきたのですが、今回、オペアンプも同じものを換装して音色の良く似たデジタルアンプが揃ったことから、バイワイアリングからバイアンプに替えてみて、逆起電力の相互干渉をさらに減らせるのではないかと考えてやってみたわけですが、LXA-OT1 と LXA-OT3 の音色の違いを克服することができませんでした。LXA-OT3 をもう 1 セット揃えて、LXA-OT3 のみのバイアンプ駆動ではどうなるか興味のあるところです。

それにしても、LXA-OT3 のオープンアンプの交換とスピーカーリベラメンテの威力で、付録のデジタルアンプでかなりのクオリティで FAL C90EXW のバイワイアリング駆動ができることが分かったことは収穫でした。

なお、バイアンプ駆動でもマルチアンプ駆動と同様にアンプの音色を統一することの重要性も分かりましたので、配置換えも考慮に入れて手持ちの真空管アンプを吟味した上で動員し、現状と違った他の組み合わせにチャレンジしてみたいと思っております。

以上